

平成 28 年度（第 4 回）教科担当教員中央会議 議事録

日 時：平成 28 年 12 月 14 日（水） 13：55～15：45

場 所：日本薬学会長井記念館 1 階 AB 会議室

出席者：別記 1

配付書類：別記 2

はじめに、望月代表理事が挨拶し、教科担当教員会議の目的等について以下のように発言した。

- ・教科担当教員会議の一番の目的は、各教科を有効に学生に指導するための方策を協議する事である。
- ・改訂モデル・コアカリキュラムの次の改訂に向けて、各教科担当教員会議で協議したことを薬学教育協議会のカリキュラム検討委員会で検討し、いつでも文部科学省へ意見を述べられるようにしたい。
- ・凡そ半分の教科が薬学会年会開催中での短時間の集まりに終始しているため、出来る限り別の日に時間をとって開催してほしい。全国薬科大学長・薬学部長会議において、出張についての協力を学長・学部長に依頼した。
- ・国家試験問題の検討については、国家試験問題検討委員会（日本私立薬科大学協会）にて行っていただき、検討結果を厚生労働省に伝えることで国公立各大学からの意見が、その次の国家試験委員会に反映されている。

次に担当業務執行理事である増野専務理事が自己紹介をし、シンポジウムや学会の前日に時間をとり会議を開催するなど非常に活発に活動している教科も多くあるので、各教科の活動報告を参考にしてほしいと発言した。

増野専務理事が議長となり、議題に沿って会議を進めた。

1. 各教科担当教員会議の活動報告

各教科担当教員会議について、各教科の出席者が以下のとおり報告した。

【有機化学系教科担当教員会議】森 裕二 先生（名城大学）

資料 1（有機化学系教科担当教員会議議事録）に基づき、森先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「力量あるくすりの専門家を育てるために化学系薬学が果たすべき役割」と題して会議を行った。
- ・特別講演、改訂モデル・コアカリキュラムについてのアンケートの調査報告、パネルディスカッションを行った。
- ・会議内容について全大学の共通認識の形成や、中央会議等への意見の発信などの問題点が指摘された。

【生薬学・天然物化学教科担当教員会議】石橋 正己 先生（千葉大学）

資料 2（生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録）に基づき、石橋先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・著書を紹介する形で、2 名が話題提供を行った。
- ・講演資料は、日本薬学会生薬・天然物部会のウェブサイトに掲載されている。

【物理化学系教科担当教員会議】志鷹 真由子 先生（北里大学）

資料 3（物理化学系教科担当教員会議議事録）に基づき、志鷹先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「新しい薬学 6 年制教育にむけて－改訂モデル・コアカリキュラムと新しい実務実習－」と題して講演が行われた。
- ・各大学に事前に依頼して「学生実習（物理化学系）に関するアンケート調査」の結果報告を行った。

【分析化学系教科担当教員会議】大江 知行 先生（東北大学）

資料 4（分析化学系教科担当教員会議議事録）に基づき、大江先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「薬学教育第三者評価による質保証－薬学教育のさらなる向上と社会へのアピールを目指して－」と題して講演が行われた。

【病態・薬物治療関連教科担当教員会議】西田 升三 先生（近畿大学）

資料 5（病態・薬物治療等教科担当教員会議議事録）に基づき、西田先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「一般用医薬品（OTC 医薬品）に関する教育についてのアンケート調査」「パフォーマンス評価から見えるもの“卒業研究のルーブリック評価”」と題して講演が行われた。
- ・名称が「病態・薬物治療等教科担当教員会議」から「病態・薬物治療関連教科担当教員会議」と変更になった。

【薬理学関連教科担当教員会議】岩崎 克徳 先生（福岡大学）

資料 6（薬理学関連教科担当教員会議議事録）に基づき、岩崎先生が報告した。概要は以下の通り。

- ・事前に回答していただいた「新コアカリに準じた、新たな薬理学実習の取り組みに関するアンケート」の集計結果について報告があった。
- ・「薬剤師教育の将来－薬学教育 6 年制導入後の現状と課題－」と題して講演が行われた。
- ・国家試験についての説明や、日本薬学会薬理系薬学部会の活動についても話し合われた。
- ・名称が「国公立薬理学関連教科担当教員会議」から「薬理学関連教科担当教員会議」と変更になる。

【薬剤学教科担当教員会議】藤田 卓也 先生（立命館大学）

資料 7（薬剤学教科担当教員会議議事録）に基づき、藤田先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・国家試験問題についての解説等が行われた。
- ・「第 17 改正日本薬局方－薬剤学分野に関連する内容を中心に」「日本の薬学教育に思うこと」と題して特別講演が行われた。

【日本薬局方教科担当教員会議】藤田 卓也 先生（立命館大学）

資料 12（日本薬局方教科担当教員会議議事録）に基づき、藤田委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・改訂コアカリを実施するにあたり、日本薬局方の内容を講義・実習等で組み込んでいくための取り組みを出席者に 1 分程度お話いただいた。

- ・改訂コアカリ下で「日本薬局方（概論）」を講義科目から無くす（無くした）大学が 10 校程度あり、薬学を学ぶ学生に日本薬局方の歴史的な経緯や重要性を提示できる講義時間数が少なくなっているとの報告も多かった。
- ・「第 17 改正日本薬局方とその周辺状況」と題して特別講演が行われた。【実務実習教科担当教員会議】野田 幸裕 先生（名城大学）
実務実習教科担当教員会議について、野田先生が報告した。概要は以下のとおり。
- ・今年度も教科担当教員会議は開催していない。臨床系教員連絡会議にて実務実習を含む関連教科に関わる事項を協議しており、年に 2 回シンポジウムやワークショップを開催している。また、メンバーもほぼ同じであることから、今後は臨床系教員連絡会議と統合して教科担当教員会議を進めるよう調整している。

【ヒューマニティ関連教科担当教員会議】石川 さと子 先生（慶應義塾大学）

- 石川先生は欠席だったが、事前に提出された資料 8（ヒューマニティ関連教科担当教員会議議事録、および追加資料）によると概要は以下のとおり。
- ・会議前に本会議の在り方に関する内容について全大学に対するアンケートを実施し、会議で報告したほか、改訂コアカリへの対応を含めた事例紹介を行った。
 - ・H29 年はじめに、改訂コアカリへの対応を含めて各大学のアンケート調査を行い、次回に向けての意見収集を行う。
 - ・アンケートの結果より、薬学会会期中に開催する希望が最も多かったが、数年に一度は別の日程で時間をかけて行ってはどうか、という意見もあった。H29 年 3 月には、情報共有を目的とした教員会議を行う予定である。別日程での会議については、H28 年度は準備不足で実現できなかったため、次年度移行、実施したいと考えている。

【薬学と社会教科担当教員会議】中村 武夫 先生（近畿大学）

- 資料 9（薬学と社会教科担当教員会議議事録）に基づき、中村先生が報告した。概要は以下のとおり。
- ・「最近の薬事行政について」と題した講演が厚生労働省より行われた。
 - ・薬学と社会分野における実施内容や特徴に関するアンケート調査結果が報告された。それぞれの大学が特徴を活かした「B.薬学と社会（A.基本事項を含む）」分野における取組事例紹介は、各大学の教科担当者にとっては有益なものであった。次年度以降は、担当分野を絞って各大学の特徴的な取組を発表していただきたいと考えている。

【衛生薬学教科担当教員会議】永瀬 久光 先生（岐阜薬科大学）

- 資料 10（衛生薬学教科担当教員会議議事録）に基づき、永瀬先生が報告した。概要は以下のとおり。
- ・「薬学教育における衛生薬学の役割」「大阪府立公衆衛生研究所の使命と役割について」と題して講演が行われた。
 - ・在宅ケア、地域包括ケアにおける地域薬局薬剤師の公衆衛生活動に対して、衛生薬学で今後どのように対応していくのか、あるいは他教科と連携していくのかについて話題提供があった。
 - ・薬学教育における衛生薬学の現状と今後の対応について協議した。地域保健や地域医療に関して衛生薬学がどのように関わられるか議論となった。

- ・次回の会議に向けて、衛生薬学関連のアドバンスト教育についての取り組み、衛生薬学を活性化するために行っている特徴的な取り組み、また外部の関連施設との協力はどのように行っているかについて、アンケート調査を実施している。

【放射薬学教科担当教員会議】坂本 光 先生（北里大学）

資料 11（放射薬学教科担当教員会議議事録）に基づき、坂本先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「放射性医薬品取り扱いガイドライン」に関する説明等があった。
- ・国家試験問題に関する報告、薬剤師国家試験問題検討 WG 委員の入れ替えについて協議した。
- ・下限数量以下の放射性同位元素を用いた実習の実施例についての情報提供があった。

【微生物学教科担当教員会議】黒田 照夫 先生（広島大学）

資料 13（微生物学教科担当教員会議議事録）に基づき、黒田先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「教員会議世話人」および「連絡会議における議題担当者」の選任を行った。
- ・微生物学教科担当教員会議を中心に、薬学会における「微生物部会」の発足について検討を進めることになった。
- ・微生物シンポジウムに関連する報告等があった。

【医薬品情報学教科担当教員会議】後藤 伸之 先生（名城大学）

資料 14（医薬品情報学教科担当教員会議議事録）に基づき、後藤先生が報告した。概要は以下のとおり。

- ・「医薬品情報学教育におけるルーブリック評価について」をテーマとし開催された。
- ・「薬学教育におけるルーブリック評価」と題して講演が行われた。
- ・テーマ：「医薬品情報学教育に関連する領域のルーブリック評価について」、具体的テーマ：「医薬品情報系の卒業論文のルーブリックを作成する」として、グループ討論を行った。各グループのプロジェクトおよび議論の内容等の詳細な報告は、「第 6 回医薬品情報学教科担当教員会議報告書」として報告した。

2. 新規の教科担当教員会議の発足について

生化学分野の教科担当教員会議の発足に向けて、本委員会に伊東進先生（昭和薬科大学）にオブザーバーとしてご出席いただいた。

また、レギュラトリーサイエンスに関する（または医薬品評価科学）教科担当教員会議の設立の要望が日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会から出され、日本大学薬学部の白神誠先生がまとめ役となったと望月代表理事が報告した（白神先生は本委員会欠席）。レギュラトリーサイエンスの分野は、薬学と社会に含まれているが薬学と社会の範囲が広いと、レギュラトリーサイエンスを別にして新しく会議を設立したいとの要望であった。

生化学分野およびレギュラトリーサイエンスに関する教科担当教員会議の新規設立について、反対意見はなく承認された。

また、新規の発足だけではなく統合等についても意見をいただきたいと増野専務理事が発言した。

3. 各教科担当教員会議の開催日について

現在の教科担当教員会議は、凡そ半分の教科が薬学会年会開催中に開催している。出張費等の事情もあるため、必ず年会とは別の日に開催しなくてはならないというわけではないが、短時間でも内容を充実させていただきたいと増野専務理事が発言した。

4. 議事録、アンケート調査結果等の活用について

薬学教育協議会のウェブサイトでは、各教科担当教員会議の議事録を掲載している。各教科にて実施したアンケート調査は、今後のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた重要な資料となるので、会議資料等と併せて、事務局へ提出してほしい、提出された資料を基にカリキュラム検討委員会においてモデル・コアカリキュラム改訂に向けた検討をしたいと望月代表理事が発言した。

また、日本薬学会の部会のウェブサイトにも、教科担当教員会議での資料等を掲載している教科もある。

5. 各大学の教科担当教員についての確認

各大学の教科担当教員が変更になっていることがあり、連絡が取りにくいとの指摘があった。各大学の教科担当教員は、薬学教育協議会が発行する薬学教員名簿に記載されている。毎年5月に各大学へ調査をし、6月頃各教科担当教員会議の委員長にお知らせしていることを確認した。(名簿の発刊は8月頃)

6. 次回のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた各教科の今後の対応について

モデル・コアカリキュラム改訂に向けて、前回の改訂の際に薬学会の教育委員会委員として改訂を行った経験から、増野専務理事が以下のように発言した。

- ・文部科学省にて改訂が行われることが決まってから、実際に出来上がるまでの時間は限られている。改訂が行われることが決まった段階で、ある程度意見を出せるようにする必要がある。各教科で議論をしていただきたいと思う。
- ・改訂モデル・コアカリキュラムに沿った国家試験出題基準が改訂された。こちらも参考にして議論していただきたい。(日本私立薬科大学協会の国家試験問題検討委員会では、当該年に出題された問題について評価を行うので、国家試験出題基準とは異なると考える。)

7. モデル・コアカリキュラム改訂に向けた対応や、開催日等に関して、以下のような質疑応答、意見が出された。

(後藤先生) コアカリの領域分類と教科担当教員会議の領域に違いがある。どの教科に該当するか、漏れがないようにある程度領域を整理する必要があるのではないかと。

(増野専務理事) 改訂を行った際のグループ分けでは大きな範囲を網羅しているため、各々の教科担当教員会議の教員が実際に講義で教えている部分について意見を出していただいた方が現実的であると思う。

(黒田先生) 国家試験の項目では微生物がないので、意見を出したい時はどのようにしたらよいか。

- (増野専務理事) 国家試験と言うよりはコアカリで考え、意見があればあげて欲しい。国家試験問題そのものに対する意見は、日本私立薬科大学協会の国家試験問題検討委員会へ出して欲しい。
- (望月代表理事) よりよいコアカリとするために意見を出していただきたい。
- (西田先生) 昨年、国家試験検討委員会が出された意見が、その後どのようなようになったか分からない。教科担当教員会議は実際の担当者が集まるので、コアカリや出題基準を議論することはよいと思う。コアカリや出題基準について議論し、持ち上げていくという方向で考えてよいか。
- (増野専務理事) 改訂コアカリの際も各大学から各分野の先生を推薦していただき、委員会を設置した。大学で推薦される先生が普段から教科担当教員会議にて議論をされていれば、委員会においても発言ができる。そのような先生が推薦されるケースが多い。普段から議論し意見をまとめておくのがよいと思う。今のコアカリの問題点として意見を出していただければと思う。
- 国家試験検討委員会が出された意見は私立薬科大学協会から厚労省側に伝えられているが、それがどのように次ぎの国家試験に反映されているかは不明である。
- (森先生) 教科担当教員会議に情報がおりにきていないことが心配である。中央委員会への意見の反映や連携など流れを作っていただきたい。
- (望月代表理事) 文部科学省の方にオブザーバーとして出席していただくよう交渉する。
- (増野専務理事) 今回の改訂に関しては文科省の薬学の人材養成のあり方に関する検討会の下に「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門委員会」が設置され、そこで方針（基礎系は3割カット、病院と薬局の実習は分けない、実務実習の方略はつくらないなど）が決まり、それに沿って薬学会の教育委員会を中心に調査研究チームが具体的な改訂を行った。よって、どのレベルに意見を反映させるかによって方法は異なると思う。
- (西田先生) 薬物治療関連教科担当教員会議は、薬学会年会の昼休みに1時間開いているが、延長ができない。薬物治療は学会やシンポジウムがないため、講演と重なるため難しいことは承知しているが、薬学会にて1時間程度延長していただくことは難しいか。
- (増野専務理事) 前日入りしていただいて、前日に開催してはどうか。年会の前後を使っていただくことが現実的かと思う。あるいはシンポジウムとして開催してはどうか。
- (望月代表理事) 教科内容やカリキュラムに関するアンケート調査を実施しその集計に対する議論であれば、1時間でも実りがあると思う。
- (阿刀田事務局長) 次々回の金沢での薬学会において、教科担当教員会議を何教科開くか問い合わせがあった。早めにプログラム委員等と連絡をとっていただくとよいと思う。

8. 本委員会の開催時期について

例年11月に会議を開催する教科があるため、来年以降も12月中旬に開催する。

以上

別記1 平成28年度（第4回）教科担当教員中央会議 出席者名簿

	氏名（敬称略）	大学名	出欠
有機化学系教科担当教員会議	森 裕二	名城大学	○
生薬学・天然物化学教科担当教員会議	石橋 正己	千葉大学	○
物理化学系教科担当教員会議	松崎 勝巳	京都大学	欠
	志鷹 真由子	北里大学	代理
分析化学系教科担当教員会議	大江 知行	東北大学	○
病態・薬物治療等教科担当教員会議	西田 升三	近畿大学	○
薬理学関連教科担当教員会議	岩崎 克典	福岡大学	○
薬剤学教科担当教員会議	藤田 卓也	立命館大学	○
日本薬局方教科担当教員会議			
実務実習教科担当教員会議	野田 幸裕	名城大学	○
ヒューマニティ関連教科担当教員会議	石川 さと子	慶應義塾大学	欠
薬学と社会教科担当教員会議	中村 武夫	近畿大学	○
衛生薬学教科担当教員会議	藤本 陽子	大阪薬科大学	欠
	永瀬 久光	岐阜薬科大学	代理
放射薬学教科担当教員会議	佐治 英郎	京都大学	欠
	坂本 光	北里大学	代理
微生物学教科担当教員会議	黒田 照夫	広島大学	○
医薬品情報学教科担当教員会議	後藤 伸之	名城大学	○
(オブザーバー)	伊東 進	昭和薬科大学	○
一般社団法人 薬学教育協議会	増野 匡彦	(専務理事)	○
	須田 晃治	(業務執行理事)	欠
	望月 正隆	(代表理事)	○
	阿刀田 英子	(事務局長)	○

別記 2 配付資料

- 資料 1. 有機化学系教科担当教員会議議事録 (H28.11.6)
- 資料 2. 生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録 (H28.9.23)
- 資料 3. 物理化学系教科担当教員会議議事録 (H28.3.28)
- 資料 4. 分析化学系教科担当教員会議議事録 (H28.3.28)
- 資料 5. 病態・薬物治療等教科担当教員会議 (H28.3.28)
- 資料 6. 薬理学関連教科担当教員会議 (H28.8.25)
- 資料 7. 薬剤学教科担当教員会議議事録 (H28.9.3)
- 資料 8. ヒューマニティ関連教科担当教員会議議事録 (H28.3.27)
- 資料 9. 薬学と社会教科担当教員会議議事録 (H28.11.12)
- 資料 10. 衛生薬学教科担当教員会議議事録 (H28.2.26)
- 資料 11. 放射薬学教科担当教員会議議事録 (H28.3.27)
- 資料 12. 日本薬局方教科担当教員会議議事録 (H28.11.5)
- 資料 13. 微生物学教科担当教員会議議事録 (H28.3.28)
- 資料 14. 医薬品情報学教科担当教員会議議事録 (H28.6.3)
- 資料 15-1. 教科担当教員会議について (お願い)
- 資料 15-2. 平成 27・28 年度教科担当教員会議開催一覧
- 資料 16. 平成 27 年度 (第 3 回) 教科担当教員中央会議議事録